

## 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 59 回部会）会議録

日 時：令和 8 年 1 月 13 日（火）午後 7 時～午後 8 時 20 分  
場 所：東淀川区役所出張所 1 階会議室

### 【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題  
(1) まちづくりに関する情報提供  
・ 防災・まちづくり講演会の報告  
(2) 地域での活動報告及び意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

### 《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 第 58 回 まちづくり通信
- ・ 【資料 1】地域からの報告関連資料

## 1. 開会

---

## 2. 部会長あいさつ

---

### （部会長）

- ・ 昨年は東淀川区創設 100 周年ということで、皆さまには様々な取り組みをしていただき、心から感謝申し上げます。
- ・ また、年末年始には様々な取り組み、イベントが開催され私もできる限り参加させていただき、高齢者や子どもたちの話を伺う機会も多く、子供たちから淡路駅や崇禅寺駅がいつできるのかという質問され、地域の思いが強くなっているのをひしひしと実感している。
- ・ この地域だけでなく、日本全国において少子高齢化が非常に進行しているが、高齢化とまちづくり、教育や保育とまちづくり、児童福祉や高齢者福祉について、まちづくり協議会で取り組んでいきたい。

## 3. 議題

---

### （1）まちづくりに関する情報提供

#### （事務局）

- ・ 昨年 12 月 6 日に開催された東淀川区創設 100 周年を記念して開催された防災・まちづくり講演会についてのご報告。
- ・ この講演会は、大きく 3 つのプログラムがあり、東京大学の片田先生の防災に関する講演として「荒ぶる自然災害に向かい合う地域防災のあり方を考える」、次に、久先生の「住民主体のまちづくりの意義と方法」、最後に、お二方の先生により「防災とまちづくり」についてご対談をしていただいた。
- ・ まず、東大の片田先生のご講演についてご説明させていただく。
- ・ 従来の防災については、行政サービスと思われているが、今後、激甚化していく災害にどう対応していくかとなると、行政では住民を守りきれなくなっている。
- ・ 日本の防災は転換点に来ており、主客未分の防災対策、行政と地域のどちらが主体、客体ということでは

- なく、地域社会が一体となって自然災害に立ち向かう必要性がある。
- ・行政は主体的な姿勢を持つ住民に対し、サービスではなくてサポートを行う。
  - ・この考え方に基づいて、防災の考え方の見直しが行われており、地域住民は自らが自分の命を守るのが基本で、要配慮者の高齢者、障がい者の方々は地域で守っていき、要支援者は行政が責任を持って守っていく。
  - ・防災教育では、思い合う環境で子どもを育み、その継続が災害に強い社会を作るということで、「育みの環境」ということを提唱。
- ・次に久先生のご講演について説明させていただく。
- ・まず、災害と協力社会ということで、市場は景気の状態による水ものであり、行政は迅速な対応が苦手であり、こういった災害時には、共、この役割が重要になっている。自分たちのことを自分自身で処理して治める、新しい主体との連携・協働により繋がる新しい公共の概念が示された。
  - ・続いて、階層型組織とネットワーク型組織のお話があり、若い人たちの活動は活発化しており、これらの取り組み活動は、ネットワーク型の活動ということで、「この指止まれ方式の活動」である。組織がなくても自発的呼びかけで、やりたいことを楽しくやるという組織活動になっている。
  - ・階層型組織型は、すぐに動かさないといけない活動、多くの人にしっかりと担っていただかないといけない活動に適し、一方、ネットワーク型組織は、長続きさせたい活動、とりあえずやってみる活動に適している。
  - ・また、地域活動協議会も含め、地域活動単位としては小学校区が丁度よく、町会単位ではちょっと小さいというようなご指摘があった。
  - ・次に、小規模多機能自治のご説明があり、小規模多機能自治とは、福祉とか教育、色々な分野で行政から地域に求められることが益々増えてきている中で、まちづくり協議会、地域活動協議会が中心となって地域の様々な組織を一体化していくという考え方。この時、まちづくり協議会、地域活動協議会は、各構成団体のコーディネーターの役割をし、上下関係ではない関係になる。
- ・3つ目のプログラムの対談のご説明をさせていただく。
- ・ファシリテーターとして、大阪経済大学の臼田先生に入ってください、お三方でのディスカッションを行った。
  - ・臼田先生から、この東淀川区のこれから100年のまちづくりについて、住民たちにできることを教えていただきたいという問いかけがあった。
  - ・久先生からは、国土地理院から昔の地形図が公開されており、非常に東淀川区の地形が分かりやすく、旧河道や旧村から災害に強い場所と弱い場所が読み取れる。そういった知見を知っていただくと良い。
  - ・片田先生からは、防災は非常に動機づけが難しいが、その中で、喜びを感じながら防災をすることが大切。黒潮町では、防災訓練で子どもたちがお年寄りに声をかける。それによりお年寄り子どもたちに感謝をするということで、喜びが再発見できた。災害という地域の共通の敵に対して、地域で取り組みコミュニケーションを取っていき、地域の結束力や喜びが生まれ、その地域に住むことが幸せになり、住みやすくなる。東淀川区でもそういったところを重視していかなければいけない。

- ・大阪経済大学の臼田先生のゼミの学生にパネル展示をしていただいた。

### **(質疑応答)**

#### **(久名誉教授)**

- ・講演できちんと理解して欲しかったのは、本来の地域活動協議会というのはこういうような動き方をしたいというところ。地域活動協議会というのは様々な方々が地域の中で協働することによって、地域を良くしていくのが地域活動協議会であり、本来の地域活動協議会というのはこういうような動き方をして欲しい、わかって欲しいというのが一番の思い。
- ・防災という観点では、有志が集まって動かしていけるネットワーク型が大事ではないかということ。
- ・尼崎市で防災ワークショップ行ったときに、男性陣は自主防災組織をしっかり作った方がいいのではないかなとなるが、女性陣は友達をたくさん作っていたら友達の心配をするから、その関係性を構築すれば良いのではないかなとなった。
- ・東成区の井戸端会でも話では、認知症のおじいちゃんが、店先に来たが誰かわからない。おばあちゃんは、日頃つき合いがあるからわかるが、おじいちゃんの日頃つき合いがないからどこの人がわからないという話があった。
- ・それがさっきの「思い合う」ということと関係しているのだろう。自分が誰かを地域の人に知っていただかないといざという時にピンになる。そのために、日頃から仲良くしようとか、一緒に行事をやろうとか、そういう呼びかけをしないといけないと思う。

## **(2) 地域での活動報告及び意見交換**

### **(事務局)**

- ・まず、啓発地域でのワークショップについて、部会員から説明していただく。

#### **(啓発地域 部会員)**

- ・第2回目は、みんなで子どもの頃を思い出して、よかったこと、よくなかったことを話し合った。
- ・昔はこうやったなことで盛り上がり、懐かしい話をしたが、高校生は「なにそれ」という感じはあるものの、そんなこともあったんやと言いながら皆さんと話をしていた。
- ・4人の高校生が来ていたが、色々な行事に参加をしたいとか、企画もしたいっていう意見も凄く出ていたので、これからそういう形で、今の世代の人たちにいろいろと一緒にやってもらえたらなと思った。

### **(事務局)**

- ・東淡路の盆踊りの時に高校生がブースを自分達でやっているという話を伺った。ぜひ情報提供をいただけないか。

#### **(東淡路・柴島地域 部会員)**

- ・高校生については、若い町会の会長さんが学生さんに任せるっていうのはどうだろうというのが始まりで、初めてだったので準備の部分はこちら側がして当日はお任せした形である。
- ・来ていた子どもたちが高校生にすごく馴染んでいた。子どもの目線に立って、声をかけながらゲームをし

てくれたらしく、保護者の方からの評判も良かった。

- ・コロナの前には、中学校から生徒会の子たちが企画から全部やりたいということで話があり、買い出しから全部、子どもたちでやっていた。子どもたちが盛り上がっているの、こちらもやっぱり盛り上げなければと思い、おそろいのTシャツを作ったりした。
- ・また、司会とかも、地域の大学生にやってもらったりしているが、そういう学生さんと知り合うのはなかなか難しいのだが、地域ではぐくみネットとかがあり、そこに中学校も一緒に絡んでもらっている。
- ・学校に地域が向く出前授業について先生方と常に情報交換したり、放課後の勉強を見るのも地域から入っていたりさせてもらっている。
- ・地域の者がスタッフになっているので、ずっと子どもたちと関わり、ずっと繋がっているというところが、何かしたいとなった時に人と繋がりやすい環境に長い時間をかけて形成されている。

### **(事務局)**

- ・この指とまれみたいな話に近いと感じた。

### **(東淡路・柴島地域 部会員)**

- ・久先生に色々とお話を聞いて、知恵をいただきながら進めてきた。

### **(久名誉教授)**

- ・先ほどの啓発地域の話の参考として2カ所ほどご紹介したい。
- ・東京の世田谷区がかなり住民主体のまちづくりをやっているが、そこでは3世代遊び場マップというのを作っている。各世代が「遊び場」というキーワードで地図に落とすことで、地域がどう変わっていったのかわかる。今の世代にも同じような作業をしてもらうことでそれぞれ世代が盛り上がる。さらに、その成果が地域の変遷として見えてくるのは面白い。
- ・三重県の伊勢市で都市計画マスタープランを作った時に、ワークショップ形式でまちづくり人生ゲームを行った。これが面白いのは、高校生も50年後は高齢者になっている。そのときにどう暮らすのかという、自分の人生を設計してもらうことで、若い人たちも高齢者の思いに重ねることができる。世代が違って結局自分の将来だという話が見えてくる。

### **(事務局)**

- ・遊び場の話では、昔は道路で遊んだり、淀川で泳いだということだった。

### **(久名誉教授)**

- ・新大阪の区画整理でまちが変わったという話が出てきていたが、区画整備は道路が綺麗になるが、多くの車が通るようになる。そう考えると、今のままの狭い路地がいっぱいあった方が、子どもは遊べるから良いのではないか。そう考えると道路ばかり広げていくのは、決していいことでもないというのが見えてきたり、何か面白いことがここから言えるのではないかと思う。

### **(事務局)**

- ・次に下新庄地域の情報を部会員から説明していただく。

### **(下新庄地域 部会員)**

- ・前回の部会でお話し、今回、サブスローガンを決めるということで、当初は5つあった案を下新庄地域のバリアフリーのメンバーで3つに絞り、そこから地域活動協議会の構成団体の各長さんに投票いただい

た。

- ・1つ目が「世代を超えて 線路を越えて 未来へつなぐ」、2番目が「受け継ごう 育てよう 笑顔のまち」、3番目が「つなぐ・つながる・つづける」。最終的には3番目の「つなぐ・つながる・つづける」というのに僅差で決まった。
- ・また、今週末には、防災学習会を行う。募集をかけて約60名の方に参加いただき、各地域で町会単位での情報交換ができればと思っている。話を聞くばかりでは無く、情報交換を行い、コミュニケーションを図るということが必要と思い、今回はそういう形で企画させていただいた。
- ・防災会議、防災学習会、防災訓練も、本当は半年に1回できれば良いのだが、なかなか行事が多くてできないので、年に1回は必ずこの学習会と防災訓練というのを色々な形でやって行こうと思っている。地域活動協議会の地域活動を行うことによって、ボランティア活動される方々の繋がりができ上がってくることで、防災・防犯につながっていくことを訴えていきたいと思っている。
- ・また、駅壁にこのスローガンとサブスローガン、下新庄地域の地域活動を大きく貼り出して、下新庄の地域活動について皆さんに知らせていきたいと思っている。
- ・スローガンは「明るい町下新庄」、サブスローガンとして「つなぐ・つながる・つづける」である。
- ・先ほどの防災についてだが、各町会で避難経路とかを改めてもう1回見る必要があると思っている。下新庄地域も取り壊しがあったり新しいものが建ったりで、今までは危険であった避難経路が有効になっていたりしている。
- ・地震とか水害、火災なんかでもそうだが、下新庄地域も非常に密集しているところなので、やはり避難については非常に大変なところがある。皆さんにもう一度見直していただいたものを避難経路地図として地図に落としていただき、SNSや掲示板や回覧で提示したいなというふうに思っている。
- ・これを毎年更新していきたいと、今は考えている。

#### **(事務局)**

- ・皆さんの地域でスローガンはあるのか。

#### **(東淡路・柴島地域 部会員)**

- ・ある。「発見、わたしたちの地域」。毎年、年始にスローガンを更新して広報誌に記載している。

#### **(事務局)**

- ・先ほどの学校の授業に参加しているお話を詳しく教えていただけないか。

#### **(東淡路・柴島地域 部会員)**

- ・5年前に1度、学校の方から地域のことを教えて欲しいと言われたので、学校に行って授業をして子どもたちが地域のことを考えて発表してくれた経緯がある。
- ・今回の高架化に伴うまちづくりについても、完成時期が今の6年生が20歳を超えていることから、子供たちに考えて欲しいと思い学校と相談したところ賛同していただき、今は、学校や地域の方たちと相談して進めている。今後、3学期の総合の授業の中で、子どもたちが考えてくれることになった。
- ・前に皆さんで行った淡路駅の見学も、子どもたちにしてもらいたいと思っている。駅の上になると地域が見渡せるので、想像もしやすいと思い、現在、調整をしている。

#### **(事務局)**

- ・皆さんの地域での活動が、その地域では普通でも他の地域から見ると参考になることがあると思う、ゼ

ひ、情報共有提供いただくとありがたい。

#### **(部会長)**

- ・私の方から2点ほど情報提供させていただく。
- ・1点目は、西淡路小学校の跡地について。廃校後、議論を続けているが、マーケットサウンディングが終わり、今年度末に事業者公募が実施される予定。地域としては、これまで西淡路小学校の跡地で様々な活動もしてきましたので活動拠点がなくなるデメリットもあるが、できるだけデメリットを減らしながら進めていきたいと思っているので、皆さまも注視していただけると幸いである。
- ・もう1点は、小中一貫校であるむくのき学園について。現在、大阪全域から子供が集まる学校になっているが、国際バカロレア教育の候補校になって、5年後の認定に向けて活動を進めていくということである。今後、申請して許可を与えられるようだが、スイスに本部がある国際的な教育機関で、詰込み型から探求心や自主性を尊重するプログラムが満載とのことである。まだ、準備段階とのことだが情報提供させていただいた。

### **4. その他**

---

#### **(事務局)**

- ・以前、計画調整局の方から情報提供があった柴島浄水場の開発用地だが、都市計画変更の手続きが12月25日に終わった。用途地域が第一種住居地域から商業地域に変更になり、開発エリアに地区計画という計画をかけることで手続きが終了して告示がされた。
- ・説明にあったように、この地域にふさわしい開発ということで、今後は、この計画に則った形で進められるということである。

#### **(久名誉教授)**

- ・学校との連携の話が出ているので茨木市の「オニくる」の話を少しさせていただきたい。
- ・「オニくる」の道を挟んだ前が茨木高校なので、高校生といろいろ意見交換したり、一緒に活動したりしている。そうすると、文化祭のときに高校生から申し出があり、教室を1つ貸すので市役所のPRの展示をして欲しいという話があった。普段から交流しておくと、色々な連携もできるので、それぞれの地域で普段から学校との交流をどんどん進めていただきたい。

#### **(事務局)**

- ・次回の開催は、3月12日、木曜日の午後7時。3月なので、協議会と構想部会になる。場所は、区民ホールでの開催予定。

### **5. 閉会**

---

以上